

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	地盤と基礎構造物の相互作用小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (基礎構造運営委員会)	主 査 名：田村 修次 就任年月：2005 年 4 月
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、地盤と基礎構造物の相互作用に関する最新の研究成果を整理し、その妥当性を検討するとともに、合理的かつ信頼性の高い地盤と基礎構造物の相互作用評価法の提案を行う。</p> <p>初年度：国内外の文献調査に基づく既往の研究データの収集と分析を行う。</p> <p>2 年度：収集された知見の分析を行うとともに、従来の設計法との比較を行う。</p> <p>3 年度：地盤と基礎構造物の相互作用評価法の提案を行う。</p> <p>4 年度：大会 PD またはシンポジウムを開催する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無： 無</p> <p>田村修次(京都大学) 鈴木康嗣(鹿島技術研究所) 安達俊夫(日本大学) 小林勝巳(フジタ) 船原英樹(大成建設技術センター) 小林恒一(ジャパンパイル) 内田明彦(竹中工務店) 神田亮(日本大学) 大島快仁(地震工学研究所) 藤森健史(大林組技術研究所) 真野英之(清水建設技術研究所) 小西厚夫(日建設計)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>杭の静的水平抵抗WG：単杭・群杭の水平地盤反力に関する検討を行う。</p> <p>パイルド・ラフト基礎の水平抵抗WG：パイルド・ラフト基礎の水平抵抗に関し、設計方法を提案する。</p> <p>応答変位法 WG：応答変位法の最新の知見を整理し、設計に反映させる。</p>	
2006 年度予算	180,000 円	ホームページ公開の有無： 無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	2007 年 1 月に 3 つの WG が発足した。現在、各 WG では、既往の研究の収集と分析を行っており、当初の目標の 90% 程度の達成度を果たしたと思われる。
委員会活動の問題点・課題	近年、杭の水平載荷試験の実施例が少なく、杭の水平抵抗に関する信頼性の高いデータを集めるかが課題である。